

TOKIWA

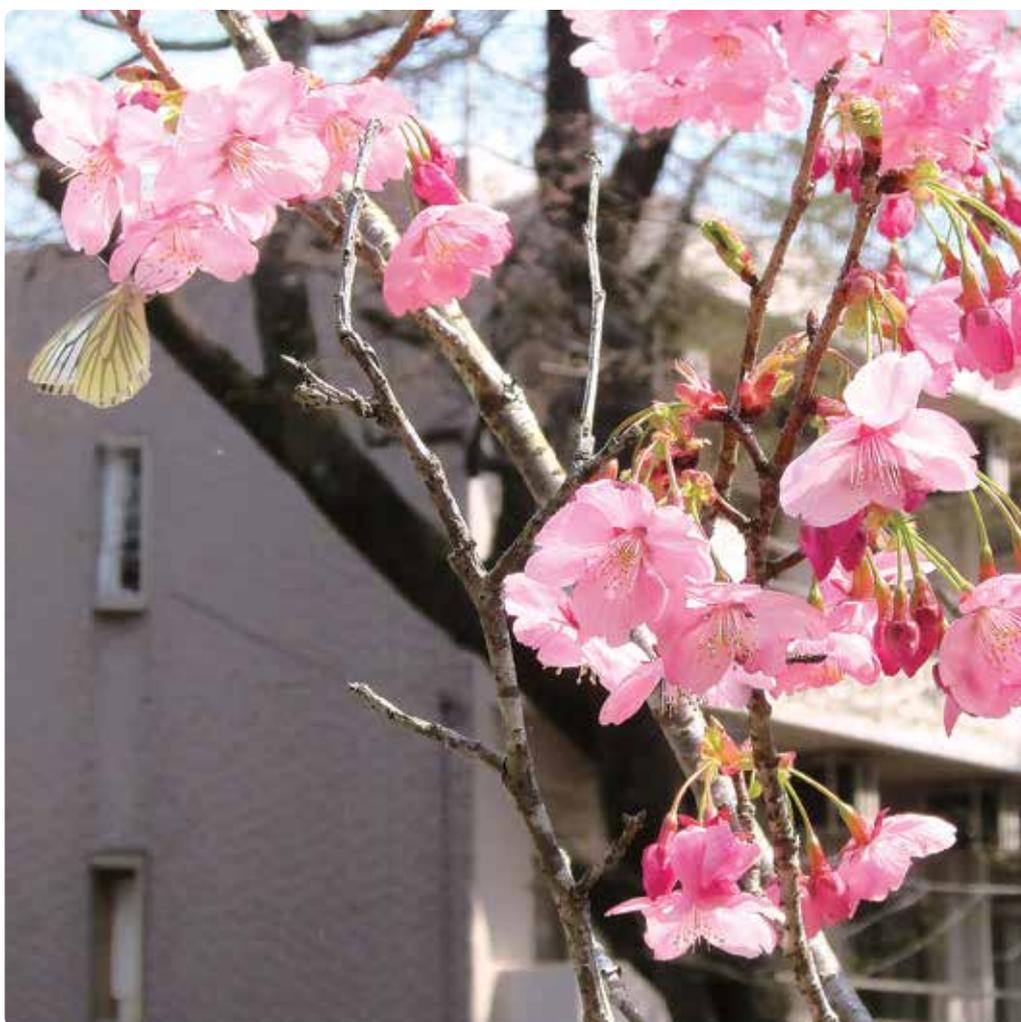
2022

SPRING

vol.207

INTERVIEW

ときわ園は働きやすい環境



今回の広報誌「TOKIWA」春号では、淑徳大学 総合福祉学部 教授 藤野達也先生にインタビューしました。

— 藤野先生は大学で福祉や介護を研究しておられますが、どのようなきっかけでこのお仕事をするようになったのでしょうか。

会社を経営していた父が将来老人ホームの経営をして、医師の兄と家を支えて欲しいといったことから、福祉を学び福祉施設で働くようになりました。しかし、兄が開業する意思はなく、老人ホームを立ち上げる予定はなくなったことから、もっとまなびたいと思い大学院へ進学し、大学の教員として働くようになりました。大学卒業時の老人ホームは、寝かせきりであまり良いケアだといえない状況でしたから、自分の親を入れられる施設、自分も入りたい施設とはということを目指して現場でもさまざまな取り組みをしてきました。

— 先生のご専門をお聞かせください。

専門は高齢者福祉ですが、大学の教員として学生指導をするようになり、専門職養成として、大学での国試対策を20年以上、学生の学びの場としての付属施設である淑徳共生苑の立ち上げにも関わり、さらに、今後の介護人材不足を考え、ここ10年ぐらいEPA経済連携協定のベトナム人介護士の現地の研修、訪日後研修などに

かかわるようになり、外国人材の問題などに取り組むようになりました。

— これまでの研究成果の幾つかを紹介していただけませんか。

私自身は研究者より教育者として学生の国試対策や実習教育などを手掛けてきました。国試対策では、2年前までは社会福祉士国家試験の合格者を5割以上5年間継続し、実習教育では、現在の実習教育センターの立ち上げにかかわってきました。当然、教育業績だけでは、大学では評価されない現実もあり、レフリー制のある学会誌の投稿にチャレンジしたり、外部の委託研究なども他の先生と受けたりしてきました。

— どのような苦勞がこれまでありましたか？

大学では、研究と教育と学内業務とのバランスが難しく、また、行政関係の委員会などの依頼も多く、いくつものことを並行して行わなければならないことは大変でした。学生指導では、家庭の事情が複雑な学生や精神的に病んでしまう学生もたまにおり、福祉現場と同様に人にかかわる仕事は大変ではありますが、苦勞しながら20年以上学生の指導にあたってきました。

— どのような時にこの仕事をしていたよかったと思われますか？

いろいろな人との出会いがあり、普通の会社、施設の職員では体験できなかったと思います。特にときわ園にも依頼させていただいたベトナムのEPAの介護士養成にかかわり、海外の方の文化の違いや考え方に触れ、視野を広げることができたのはほんとうに良かったと思います。

— ときわ園にはどのような魅力があるか教えていただけますか？

ときわ園の魅力は、職員の方にとって働きやすい環境が整えられているという点だと思います。おかげで私のゼミの卒業生もほとんど離職することなく長年勤務させていただいています。今後も引き続き、利用者にも職員にもいい環境が続くように運営していただきたいと思っています。

藤野先生、この度はインタビューに応じてくださりありがとうございました。



淑徳大学教授
藤野 達也 先生

それは本当ですか？

私たちは日々様々なニュースや情報を見聞きします。しかし、全ての情報が正しいとは言い切れません。今から200年以上前のあるドイツの歴史家は「新聞を全く読まない人は愚かだが、さらに愚かなのは、新聞に出ているからといってそれを信じる人だ」と述べています。当時は新聞が主な情報源でしたが、昔から「フェイクニュース」があったということが分かります。

現代では新聞に加え、テレビやインターネット、SNSなど、情報源は多岐に及んでいます。その中には嘘や真実、有益なものや無益なもの、無害なものや有害なものが混在しています。「世間知らずの人は全ての言葉を信じ、聡明な人は1歩ごとにじっくり考える」と言われているように、見聞きした情報をすぐ鵜呑みにするのではなく、それが正しいかどうか

冷静に判断することが大切です。総務省の「ネットと上手に付き合おう!」というインターネットサイトには、情報の確認方法がいくつか提案されています。①他の情報と比べてみる、②情報の発信元が信頼できるか確かめる、③その情報はいつ頃書かれたものか確かめる、④情報が引用や伝聞だった場合は、元になった一次情報を確かめるということが勧められています。更に、情報を流している人や組織の動機がどういふものかを考えるのも必要ではないかと思います。いつもこうした視点で嘘、無益、有害な情報を取り入れないようにすることが賢明であると言えます。

加えて、聞いたことをすぐにSNSなどで拡散しないことも大切です。11年前の東日本大震災で、市原市のコスモ石油千葉製油所で火災が発生した際、有

毒ガスが拡散したというデマがメールなどで流れてきて、信じてしまいそうになったことを思い出しました。こうしたデマは混乱を招き、避難や適切な行動を阻害することにつながりかねません。こうしたことはこれからも起こる可能性があるため、注意したいものです。

ときわ園では本誌やホームページ、SNSなどで情報を発信していますが、常に正しい情報を発信するよう心がけております。これからも皆様に楽しくご覧いただき、お役立ていただけましたら幸いです。



理事長
三枝 弘朋



文化庁「日本語教師養成における動画教材」制作のための協力施設に選ばれる

文化庁では、様々な業界分野において必要とされる日本語教師養成の過程および研修等で活用できるよう動画教材を制作しています。この度、EPA(※)介護士の日本語教育等を手掛ける株式会社アークアカデミー様が、文化庁国語課からの要請を受け、「介護分野の就労者に対する日本語教育」の動画作成を担当されることになり、ときわ園がその

動画制作に協力することになりました。

1月28日、アークアカデミー研修事業部の一力絵美様と撮影班2名が来園。日本語授業、EPA介護士ツアー職員とフエン職員、そして学習指導者の井上介護職長へのインタビューの撮影が行われました。

このように制作された動画が日本語教師養成のための一助となること

を願っています。

※EPAとは、Economic Partnership Agreementの略で、経済連携協定(ヒト、モノ、カネの移動の自由化、円滑化を図り、幅広い経済関係の強化を図る協定)のことです。日本とベトナムとの間で結ばれているこの協定においては介護分野も含まれており、ときわ園ではこの仕組みを活用し9名のベトナム人介護士が働いています。

介護職長
井上 宏樹



日本語授業撮影風景の撮影



インタビューの撮影

研究の様子

学習指導中



デイサービスの活動

窓越しに広がる日当たり良好な庭では園芸や日光浴等各々が好きなように楽しまれております。フロアでは工作や塗り絵に没頭される方、レクリエーションを楽しむ方、ゲーム対決に集中される方など賑やかに過ごされております。機能訓練室では個々の目標に向けて個別機能訓練を実施して、皆様の目標達成のために力添えをさせていただいております。



日光浴をしながら



畑へ石灰を



畑のお手入れ



テラスの掃き掃除中



晴空のもと歩行訓練



頭の体操中



カブの収穫風景



完成品と記念撮影



パズルに集中...



手先の器用さが光る...



工作レク風景



収穫祭の記念に



オセロ対決



跨ぎ動作訓練



膝関節周囲筋の強化訓練



カップインを狙って...



シュート!



パワーリハビリ【下肢筋力増強中】



パワーリハビリ【上肢体幹筋力増強中】



皆さん綺麗に塗られます



箸の反復訓練



朝のラジオ体操

事故防止のコーディネーター 事故防止委員会

介護施設における事故防止活動の課題としては、「迅速な対応」、「情報共有」といったものがあります。他職種を交えたリスクについての話し合いや、対応策についての周知徹底が迅速に行われない結果、新たなリスクが次々と生まれ、連鎖的に事故が起こる可能性が高まります。

事故防止委員会は、介護、相談員、医務、リハビリ、業務サポート各部門が一体的、包括的に、ご利用者の尊厳

ある暮らしと安心・安全が提供できるよう、介護現場と各専門職種間の繋ぎ役、コーディネーターとして、以下の活動を行っていきます。

●ICT化された「ヒヤリハット」情報に基づき、現在の介護現場のリスク状況を把握、関係専門職種を交えてのカンファレンスを開催。

●業務改善、環境整備、福祉用具導入等、現場での具体的な事故対策を行う際の、各専門職種への相談窓口業務。

事故防止委員会
委員長
松島 健



●全フロア共通の、事故対策に関する情報共有ツールの考案、及び啓発活動。

以上を今後新たな事故防止委員会の活動目標とし、ご利用者の尊厳を守りつつ、安心・安全な暮らしを提供できるように努めてまいります。



事故データを分析する職員

清掃清潔は仕事の基本

ある日、清掃中に、ご利用者から「汚してしまったのだけど、屈めないの。拭いてもらえる?」と言われたことがあります。自分で掃除できないことをもどかしく感じているのが伝わってきました。それ以来汚れを見ると、これが自分の部屋だったらどんな気持ちだろうと考えます。そのご利用者は綺麗になった床を見てホッとされた表情になりました。清掃清潔は施設にとってメインの仕事ではありません。し

かし、介護される方、する方が安心できる環境を作るという意味で、あらゆる仕事の基本になる作業だと思えます。新型コロナウイルスが流行して以来、清掃業務の重要性も増しました。朝の検温、マスク、こまめな手袋交換以外に、消毒作業が加わり、掃除道具や頻度も再考されました。手間は増えましたが、結果としてその意義を実感しています。というのも、ここ2年私自身が風邪をひかなくなったの

業務サポート部門
喬 恵理佐



です。これからも大切にご利用者と働く職員の安全のために責任感を持って仕事をしていきたいと思えます。



食堂の床清掃



居室の洗面台清掃

リハビリ付きの特養はいかがですか

作業療法士
石田 琢哉



1. 機能訓練指導員とは

機能訓練指導員は、介護保険法によって定められている職種のひとつです。ご利用者一人ひとりの心身状態に合わせて機能訓練を行い、できる限り自分で身の回りのことができるよう支援していく役割を担っています。なお、この職種は役割を意味するもので、「機能訓練指導員」という資格があるわけではありません。看護師など指定された資格を有することが条件です。特別養護老人ホームときわ園では、医療分野でもリハビリの専門職である作業療法士が担当しています。

2. 特別養護老人ホームときわ園でのリハビリテーション

機能訓練指導員の仕事は、まず生活環境の確認や身体機能の評価から始まります。ご利用者本人やそのご家族の意向も伺いながら、目標を設定。どのような訓練が必要なかを判断し、個別機能訓練計画書を作成します。機能訓練はこの計画に沿って行われます。

訓練内容としては、関節の動きを

維持するための関節可動域訓練、筋力訓練、立ち上がり・立位保持訓練や歩行訓練。そして、移乗動作訓練やトイレでの排泄動作訓練。気分転換を兼ねた、園庭散歩や買い物、園芸作業などがあります。毎年、種から育てるアサガオは好評です。

また、ベッド上や座っている時の姿勢の確認や助言、見当識（認知機能のひとつ）の確認、車椅子など福祉用具の選定、環境整備なども大切なリハビリテーションです。

3. 「あきらめない」ということ

できるADL、しているADL。こんな言葉を聞いたことはありませんか。ADLとは「Activities of Daily Living」を略した言葉で、「日常生活動作」のことです。食事・着替え・移動・排泄・整容・入浴など、生活上で不可欠な基本的行動をいいます。

できるからしているとも限らず、また、していないからできないとも限りません。理由は様々ですが、ご利用者によっては職員に遠慮し、あきらめかけていることもあります。

骨折後の安静を経て、長い間寝た

ままであった入所中のHさん。「あの時はもう、ずっと寝たきりでオムツだと思っていた。トイレに行けるようになって、本当に感謝しています」と嬉しそう。リハビリテーションをきっかけに、生活の質までも回復できた一例ですが、やはり、あきらめないケアが重要だと考えています。

4. 科学的な介護の実践

令和3年4月の介護保険法改定により、「科学的介護」推進のため、厚労省へのADL関連データの提出が必要となりました。特養ときわ園ではすでに、平成29年よりバーセルインデックスという指標を用いて、ADLモニタリングを行っています。

これは、ご利用者個々について日常生活動作の状況や力がどのくらいか、どう推移しているのか等を客観的に知ることができるものです。

当園では本年度を通し、従来型・ユニット型共に、ご入所者全体の日常生活動作能力が維持できているという評価結果が期待されます。これからも科学的根拠に基づく介護に取り組んでいきます。

ときわ園BCP対策の取り組み ～高齢者住宅新聞に掲載～

業務サポート部門
リーダー
田村 知之



週刊 高齢者住宅新聞

特別養護老人ホームときわ園では、BOSS（災害対応工程管理システム）を活用した災害対応に取り組んでいます。ときわ園のこうした取り組みについて2021年11月3日付の高齢者住宅新聞に掲載されましたのでぜひご覧ください。



火星の襲来が失敗した理由

施設長
酒井 章年



世に知られたSFの古典的名作の中に、イギリスの作家H・G・ウェルズ著作の「宇宙戦争」(The War of the Worlds) という小説があります。火星人が地球に襲来し地球が滅びようとするまさにその寸前、突如攻撃が止みます。なんと火星人が地球の病原体に侵されてしまったのです。火星人の侵略が失敗したのは、人間のいかなる武器や策略によるのではなく、地球に存在する病原体に対する免疫が全くなかったことによるものでした。

もっともこの話は架空の物語です。しかし、病原体の威力について多くを語っているようにも思えます。今日、地球上ではこれまで知られていなかった病原体新型コロナウイルスが猛威を振っています。このウイルスによって人間が滅びることはないにしても、未だかつてないほど感染が拡大し、多くの人命が失われています。ワクチン接種が急がれ免疫を獲得するために奮闘していますが、いつまでこの状態が続くかわかりませんが、この戦いで早く勝利を収め

たいものです。幸い、ときわ園ではこれまで、施設内感染ゼロの状態を維持しています。終息するまで何とでもこの記録を保ち、ご利用者と職員の命を守る決意です。



活動ログ

～12/4 新型コロナウイルス感染対策シミュレーションの実施

特別養護老人ホームときわ園では、新型コロナウイルス感染症対策シミュレーションを実施し、ときわ園内部で新型コロナウイルス感染症が発生したときに備えた訓練を行いました。ゾーニングのためのテープを張り、必要な備品を確認し、防護服を着用してみるなどし、実際の行動を確認し

ました。生じた課題は感染症対策マニュアルの改訂につなげ、万が一に備えた体制を整えるように努めています。



感染症対策備品の確認



防護服の試着

12/22 ベトナムから有名なマジシャン!?

ご利用者楽しんでいただきたいというEPA職員の思いから、12月22日に新館3階でお楽しみ会を行いました。そこで気になる内容は…

実はベトナムで有名なマジシャン!?!というEPA職員2名によるマジックショーでした!!そんな冗談を交えながらも、本物のマジシャンかと思うほどの完成度の高いマジックに「すごいね」「どうなっているの?」「手首できるんだね～」などと大盛り上がり!!

その様子を見てマジックの練習を当日まで何度も練習したEPA職員も嬉しそうに

していました。ご利用者だけでなく職員も一緒に楽しんだお楽しみ会となりました!



ご利用者にマジックを披露するダット職員



みんなの前でマジックを見せるフォアン職員

1/6 ときわ園雪景色

千葉市緑区では2022年1月6日の午後から雪が降り始めました。天気予報ではこの日の午後から夜にかけて雪が降ると言われていましたが、これほどの降雪になるとは思いもよりませんでした。幸い、デイサービスセンターこもれびでは通常通りサービスを終え、無事にご利用者を自宅までお送りすることができました。職員たちも事故に遭うことなく出勤したり帰宅したりできました。やはり雪が降ると神経を使います。

雪が降っても悪いことばかりではありません。日頃見ることができない美しい

光景が広がります。特別養護老人ホームときわ園では、こもれびの庭を含め自然

環境に恵まれていますので、非常に美しい雪景色が展開します。



正面玄関から見た雪景色

編集後記

新型コロナウイルスの蔓延やウクライナでの戦争など、よいニュースがあまり聞かれません。ともすると、気が滅入ってしまうような今日この頃です。しかし、寒い冬が過ぎれば暖かな季節がやって来るのと同じように、本当の意味で平和で安全な社会が実現することを待ち望みたいものです。今回、広報誌TOKIWA2022年春号をリリースしましたが、明るい話題を盛り込みました。前向きな考え方を持つ上で役立てていただければ幸いです。そして、コロナが終息した暁にはぜひときわ園に足をお運びください。

